

第374空輸航空団 指揮権交代 374th Airlift Wing changes command

July 10, 2024

374th Airlift Wing Public Affairs

横田基地で7月9日、第374空輸航空団の指揮権交代式が執り行われ、リチャード・マックエルハニー大佐が、アンドリュー・ラダン大佐から指揮権を受け継いだ。

式典の執行官をリッキー・ラップ中将が務め、就任する司令官と離任する司令官の家族、第374空輸航空団の関係者、そして地元の代表者たちが出席した。

退任する司令官ラダン大佐は壇上で次のように話した。「この場を司令官としての経験と皆さんの功績に感謝する機会と捉え、演台に立たせていただいています。日米のパートナーシップの強さは、協力関係で成り立っています。アメリカは強国ですが、自分たちだけでは任務を果たせません。日米がチームを築き、協力を維持していくことで世界中で成功を収めるのです」

ラダン大佐のリーダーシップのもと、第374空輸航空団はメンタルヘルスのリソースの拡大や教育と育成の発展を図り、国防総省のイニシアチブを推進した。

ラダン大佐の在任中、第374空輸航空団はインド太平洋地域に必要な物資と人員を届けるために2万回以上の空輸を行い、卓越した地球規模の機動性を発揮した。また、国防総省の中で最も長い歴史を持つ人道的空輸作戦「クリスマス・ドロップ作戦」では、58の島に66,000ポンド(約30トン)の支援物資を届けた。ラダン大佐は、インドとの過去最大規模の二国間演習を含む、27の戦域広域演習と15カ国との作戦を指揮した。

指揮官交代式はローマ時代から続く伝統で、軍の指導者が聴衆の前で指揮権の象徴であるバトンや隊旗、軍旗などを受け渡し、部隊の公式な指導権と信頼を引き継ぐものである。

第374空輸航空団の新司令官に就任したマックエルハニー大佐は「日本にいと落ち着き、幸せを感じます。さらに日本に友人たちもいます。日本以上に行きたいところはありません。我々はみな同じ目的のためにここに集まり、一致団結してこそ目的を成し遂げられるのです。私にとって念願の仕事です。皆さんに私の全てを捧げます」と語り、「皆さんは私の優先するものが自ずと見えてくるはずです。そして答えを与えるので、準備をしておいてください。任務に励んでください。私たちが支えます」と続けた。

第374空輸航空団は、インド太平洋地域において機敏な空輸と支援作戦を実行し統合部隊を展開することを任務の指針としている。

